

赤い屋根まごころ基金会計報告 2024年度(2024年4月～2025年3月)

(単位：円)	
【前年度繰越金】	10,106,733 (遺贈寄付金 9,811,790)
【収入】 寄付金 84件	4,527,908
【支出】	
ボランティア活動費	372,922
市民公開イベント費	25,760
患者会運営費	76,535
図書費 (外来待合、医療情報の庭、入院患者図書室)	116,553
教育ツール	1,734,700
赤い屋根まごころ基金報告書印刷費	87,120
(小計)	2,413,590
遺贈寄付金支出	6,968,390
(小計)	6,968,390
合計	9,381,980

【翌年度繰越金】 12,221,051
(遺贈寄付金 2,843,400)

※遺贈寄付金：寄付者のご希望により用途が決まっています

* ご寄付いただいた方 *

ご氏名の掲載は、承諾をいただいた方のみです（敬称略）

赤木 真市	大塚英一郎	小谷 雄亮	武本 勝志
石井 誠	大鳴 一史	小西キヨ子	玉井 孝典
石郷岡政広	大鳴 桂華	小山 大輔	藤田 誠
井上小緒里	橘 高 彰	小山 朋美	松井規佐子
岩井ヨリ子	久保百合子	相良 敦夫	宮成 幸雄
上田 耕一	小泉 穂高	千田 健二	宮宗喜美子
上西 節雄	小出 恭大	高田 和弘	矢野 稔

くさか整形外科 日下 純一
横浜幸銀信用組合 倉敷支店 支店長 藤谷 明仁

1 棟1 階廊下に 2024 年度ご寄付者銘板を掲示しました



【赤い屋根まごころ基金について】

当法人は、創立当初より、地域の皆さまへの社会貢献を目的の第一と考えて医療を行っています。

「赤い屋根まごころ基金」は、2004年12月の設立以来、皆さま方からのご厚志をお受けし、皆さまの病院としての活動をよりよくするために役立たせていただいています。基金の趣旨をご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

基金の取り扱いについて

1. 「赤い屋根まごころ基金」は、次のようなことに使わせていただきます。

-  地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。
-  明るく快適な病院環境にするための整備。
-  病院で行う臨床研究に対する支援。
-  職員の教育研修に対する支援。
-  ボランティア活動に関する支援。
-  ご寄付いただいた方のご要望事項。

2. 「赤い屋根まごころ基金」は、「基金制度運営委員会」で運営いたします。

3. 「赤い屋根まごころ基金」の活動内容（寄付金の受け入れ・使用状況など）については、ご寄付いただいた方をはじめ、広報いたします。

4. 「赤い屋根まごころ基金」へのご寄付は、「すべての人に平等に」という創立者の精神に基づき、誤解を招きやすい入院予定・入院中の患者さん、ならびにそのご家族からの寄付はご遠慮いただいています。個人の方の当法人へのご寄付については、確定申告により所得税の優遇措置が受けられます。当法人または法人施設のホームページをご覧ください、下記事務局にお問い合わせください。

「赤い屋根まごころ基金」のご案内

基金事務局（086-422-0210 経理課）または入院会計窓口
〒710-8602 倉敷市美和1丁目1番1号
<https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/donation/>



赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



100年前に創立した倉敷中央病院が1927年に独立採算制へ移行してから、当法人は一民間医療機関として補助金や交付金に頼ることなく、収入の9割以上が保険診療による診療報酬を財源としております。

2024年4月から2027年3月までの3か年にわたる「第6次中期経営計画」では、次なる100年に向けて「倉敷中央病院のこれからのありたい姿」を打ち出しました。目指す姿、質の高い医療の実現には、継続した人材の育成や高度な医療機器が不可欠です。しかし、国の医療費抑制政策や、医療の高度化に伴う薬剤や医療機器の価格高騰で病院経営は厳しさを増しています。

地域の医療の質向上のため、誠に恐縮ではございますが、皆さま方にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。



公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



Message from Chairman

理事長より皆さまへ

公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

理事長 浜野 潤

平素は当法人の活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

当法人の長い歴史に培われた伝統を生かしつつ、必要な改革にも取り組む「伝統と革新の両立」が求められています。常に創業の理念に戻りつつ、新たに生じる諸課題に果断に取り組むことで、地域の皆さまの健康に貢献してまいります。

「赤い屋根まごころ基金」は、皆さま方とともに当法人をより良いものにしていきたい、皆さま方と共に歩み、進化する医療機関でありたいという思いで始めた基金でございます。国の医療費抑制政策や医療の高度化に伴う薬剤、医療機器の価格高騰で厳しい収支状況のなか、当法人が進める社会貢献をより実り多いものとするために大きな力となっています。

基金は専門の委員会適切に管理・運営し、快適な病院環境整備のためなどに使わせていただいています。2024年度は、看護の質向上につながる「Nursing Skills」、患者会や患者さん向けイベントの開催支援などに活用させていただきました。このほか、2023年度に購入しました NICU のカンガルーケア用チェアを利用された方が「より多くの親子にカンガルーチェアの機会を」と同タイプのチェアを寄贈くださいました。

今後とも、皆さま方の基金へのお気持ちを十分に考慮して使わせていただきたいと思います。ご支援・ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。



What we do

当法人のトピックス

2024年4月～2025年3月

寺井章人副院長が院長に就任 2024年4月1日



寺井 章人副院長が院長に就任。前院長 山形 専先生は総院長に就任し、新体制が始動。院長交替とともに第6次中期経営計画（2024 年 4 月～2027 年 3 月）も発表し、「次なる 100 年に向けて“倉敷中央病院のこれからのありたい姿”を打ち出しました。

洪水対策工事竣工 2024年6月12日



2022 年 10 月に着工した洪水対策工事が竣工し、6 月 12 日に竣工式を執り行いました。工事で伐採した桜からとった挿し木を、西駐輪場近くの植栽に記念植樹しました。故大原聰一郎ゆかりのアベマキの木周辺は、憩いの広場として整備しました。

救急救命士の妊産婦救急講習に向けクラウドファンディング実施 2024年7月24日-9月30日



救急救命士を対象とする「リアリティのある病院前周産期救急シミュレーションコース」開催費用を募るクラウドファンディングを実施。目標額の 2 倍を超えるご寄付をいただきました。講習のための機器購入を進め、2025 年 1 月に第 1 回講習を開催しました。

ヨーロッパ品質研究学会のQuality Choice Prize 2024を受賞 2024年12月9日



スイスに本部を置くヨーロッパ品質研究学会 (European Society for Quality Research) から Quality Choice Prize 2024 を受賞しました。2023 年度の Quality Achievements Award に続き2年連続の表彰を受けました。

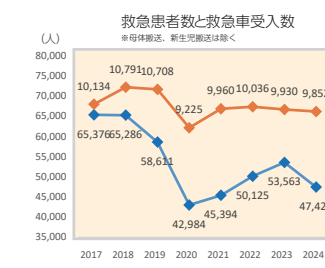


results

診療実績

—倉敷中央病院 2024年度

- 入院延患者数 347,869人
(1日平均 953人)
- 外来延患者数 616,501人
(1日平均 2,486人)



ご厚志をかたちに —2024年度の基金活用実績より

NICU に寄せられた贈り物

2023 年度に NICU に導入した、カンガルーケア用リクライニングチェア。キャスター付きで、医療機器につながった赤ちゃんの近くに移動でき、安定感があると好評です。同じタイプの椅子を寄付したいとお申し出をいただき、お受けしました。

ご寄付者様からのメッセージ

わが子が NICU でお世話になった1か月間、カンガルーケア用の椅子をお借りして多くの時間を過ごしました。生まれたばかりの赤ちゃんは目がよく見えない代わりに、母親の匂いにとっても敏感で、その匂いを感じることで安心するそうです。わが子と妻が心安らかに過ごす時間は、かけがえのないものでした。私たちがお世話になったカンガルーケア用の椅子が1台しかない聞き、「部屋は2つあるし、もう1台椅子があればより多くの母子が安らげる」と考え、同じ椅子を1台寄付させていただきました。赤ちゃんのご家族が過ごす大切なひとときに、少しでも多くこの椅子が寄り添えるよう願っています。



病院ボランティア「グリーンはあと」の支援

活動費を基金から支援しました。写真の手芸ボランティアが手にしているのは、2024 年に新たに制作開始した認知症マフ。高齢の患者さんや認知症患者さんは、マフの内側にあるアクセサリに触れることで安心感が得られるとのこと。マフの素材も、冬は毛糸で編み暖かく、夏は素材を工夫して涼しくするなど、患者さんの安らぎを重視して制作しています。



患者さんのための活用

看護の質向上につながる動画集の年度契約

看護師向けの動画集「Nursing Skills」の2024 年度契約に、基金を活用しました。バイタルサインの確認や検体採取方法などの手技解説、臨床検査のデータの読み方や身体診察の具体的な方法と技術における実践など200 件以上の講義動画を視聴できます。BLS（1次救命処置）解説など、看護師以外の職種の学習にも広く活用しています。



職員の教育研修への支援

新設の患者会「IBD 友の会」を支援

当院は 2023 年 7 月に炎症性腸疾患（IBD）センターを開設しました。IBD とは主として潰瘍性大腸炎とクローン病を指します。日本では潰瘍性大腸炎罹患者が 22 万人以上、クローン病罹患者が 7 万人以上存在し、これは日本の人口の約 0.2%に相当し、1,000 人に2～3 人が罹患している計算になります。

IBD は若年発症が一般的であり、成人だけでなく小児期の発症が少なくありません。そのため、幅広い患者層に対して的確な診断と治療を行うことが求められ、就学、就労、結婚、妊娠・出産などのライフイベントにも配慮が必要となります。最近では小児期発症の患者さんも増加し、患者さんやご家族から患者同士での意見交換ができる場を求める声も多くなってきました。

患者さんやご家族の相談窓口となることへの期待を込め、2025 年2月に第1回「IBD 友の会」を開催、これを基金で支援しました。今後は年2回程度の開催を予定しています。



患者さんのための活用



第1回「IBD 友の会」ご案内